

## 第710回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1 清水港海岸 官民連携による地震・津波・高潮対策事業 [静岡県] …………… 静岡県静岡市清水区

- ・清水港日の出地区は清水港発祥の地であり、大型商業施設が立地し、海外からのクルーズ旅客の増加に伴い、国内外から多くの来訪者が訪れる場所である。
- ・当地区の防潮堤整備は、“みなと”と“まち”の利用の連続性や周辺景観との調和が課題とされていたことから、防潮堤の設計段階から官民が連携し協議を重ね、防潮堤の高さを活かした隣接する民間施設と一体的な緑地を整備。
- ・高低差を活かした緩やかな芝生緑地広場からは、クルーズ船寄港をはじめ港湾活動が一望できるとともに、清水港発祥の地を可視化、新たな富士山眺望の拠点が整備され、防潮堤整備を契機に景観に優れた市民の憩いや賑わいの場を創出。



### 2 富士海岸蒲原工区日の出離岸堤工事 [中部地整] …………… 静岡県富士市

- ・駿河湾は、河口の深さが2,500mに達する我が国でも最も深い湾であり、海底地形も駿河トラフと呼ばれ、非常に急峻な海底勾配となっているため、近年では外洋で発達した高波等の影響に伴い、沿岸漂砂の減少等により海岸侵食が進んでいる。
- ・そのため高波や海岸侵食に対する事業として、一級河川富士川（国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所が管理）河口西側に位置する富士海岸蒲原工区において、1個当たり約50tのコンクリート製消波ブロックを、富士市五貫島地先（今回の現場研修会場）で製作・積込・運搬（海上）し、静岡市清水区蒲原地先で据付する工事を、現在鋭意施工中である。



### 3 沼川新放水路（仮称）整備事業 [静岡県] …………… 静岡県沼津市

- ・一級河川富士川水系沼川流域は、富士山南麓の急峻な山地と排水困難な低平地からなる地形特性などにより、昭和49年7月の豪雨では床上浸水695戸、床下浸水1,369戸に及ぶ未曾有の被害が生じ、近年では令和3年7月や令和5年の台風第2号で浸水被害が発生している。
- ・平成24年に策定した「一級河川富士川水系富士山麓ブロック沼川河川整備計画」に基づき、年超過確率1/10規模の降雨による洪水に対して、流域内の浸水常襲地区における家屋浸水被害を概ね解消することを目標に、支川の高橋川を分流し、直接駿河湾に洪水を流す沼川新放水路（仮称）整備に着手した。
- ・これまで海岸部の国受託工事が完成し、現在、J R 東海道本線交差部等の函体工事を進めている。
- ・今後、国道1号交差部の橋梁架替や河道整備を行い、令和14年度の完成を目指す。

